

あかえびと

98号 (新会堂と共に) 2018年12月発行

日本バプテスト同盟金沢文庫キリスト教会

〒2360046 横浜市金沢区釜利谷西 3-36-20

牧師 森島牧人・森島 恵 電話 045-783-5475

e-mail: church.kanazawabunko@gmail.com

クリスマスのメッセージ：「愛の誕生」 森島牧人牧師

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」(コリントの信徒への手紙 一 13章13節)



クリスマス(Christmas)とは、キリスト(Christ)を礼拝(Mas)する日という意味です。「礼拝」というと、皆さんは、教会やクリスチャンスクールでもたれる特別な宗教儀式のこと

を考えるかもしれません。しかしこれは、「価値」という言葉と深い関係があるのです。英語の“worship”(礼拝)は、“worth”(価値)を認めるという意味だからです。

聖書は、「あなたの宝のある所には、あなたの心もある」(マタイ6:21)と言います。私たちは、いつも自分にとって、もっとも価値のあるものを求めて生きています。従って、その人が何に価値を認め、追求しているかによって、その人の生き方が分かります。つまり、皆それぞれに礼拝するものを持っているからです。ある人にとって、それは「健康」であったり、「お金」であったり、「名誉」であったり、「社会的地位」であったりします。

聖書のクリスマス物語の中の人物像は、実は、いろいろな価値観を持った人々、つまり私たち人間を代表しています。ローマ皇帝ア

ウグストやユダヤ王ヘロデは、富と権力の座に着いています。東方の博士たちは、知識、知恵、技術の担い手です。羊飼いたちは、夜勤の労働によって生活を支えている人です。昔も今も、こういう人たちが互いに対立したり、妥協したりしながら、本当の人生の価値とは何であるかと、問いつつ、求めつつ、しかも、分からなくなりながら生きている。これは私たちの社会の現実ではないでしょうか。

しかし、主イエスの誕生は、これらすべての人々にとって、ショックでした。富でも、権力でも、健康でも、仕事でも、知識でもない価値、すなわち「愛」の誕生でした。2000年の昔に生まれたあのベツレヘムの赤ん坊が、どのようにこの「愛」を生き、「愛」に死んだかを、聖書は訴え続けてやまないのです。

クリスマスに対する人々の反応は、様々でした。ヘロデは赤ん坊の主イエスを殺そうとしました。権力という価値にとって、「愛」は危険なものであったからです。また、ベツレヘムの宿にぬくぬくと収まっていた人々も、主イエスの中へ招き入れることはしませんでした。暖かい現状維持は、常に心地よいものだからです。

しかし、羊飼いたちは、仕事をおいて、あの家畜小屋へと駆けつけました。また、東方

の博士たちは、遠い旅路の犠牲を払った上、自分たちの宝（価値）を、「愛」の前に投げ出し捧げました。博士たちは、本来ならば、彼らの生命を掛けて守らねばならない、最高の価値を、宝を、主イエスの前に捧げ礼拝したのです。

あなたは今、何を礼拝していますか。この問いかけが、クリスマスです。



クリスマスに思う事

羽入田 毅

この時期になると、と言っても2012年12月以降になりますが。それまで生まれてこのかたクリスマスは商人の商戦の一つと思っていたし、キリスト教会の建物に入ったのも2006年義父母の葬儀の時だけでありました。

2012年12月23日のクリスマス礼拝の時初めて宗教を意識して金沢文庫教会（当時の名称）の礼拝堂へ入りました。この日この時が現在に至る始まりでした。

クリスマスの時期にイエス生誕の場面のナティビティ（久保田兄妹が献品）が飾られるようになったのはもう少し後のことでした。東方の三博士のことも初めて聞いたり読んだりしました。御子の生誕に関わる事はその後聖書、説教などを通して識るようになりました。とりわけて、ナティビティには登場出来なかった四番目の博士の話はイエスの教えに近づけてくれた物語としてクリスマスの頃

になると思い出します。三博士と一緒にベツレヘムへ赴き御子にお会いするため旅立ったがその途中いくつもの困難や出来事（熱病に苦しむ旅人、ヘロデ王の兵士に殺されようとしていた幼子、借金のカタで売られそうな娘などを助けた結果御子に贈る宝石類を使い果たす）のあと御子の誕生から33年を経た時に漸く彼アルタバンが主にお会い出来たというあのお話は老生へのクリスマスプレゼントでした。アルタバンの死に臨んで聞こえた静かな声「私の兄弟であるこれらの小さな者達にしたことは私にしたのだ」と。アルタバンは微笑を浮かべて死にました。その時こそ、イエスが十字架上で刑死される瞬間だったのです。

そして今、主イエスに十字架の上で楽園に招かれた強盗も共に語り合っているに違いありません。今年もクリスマスが近づいて来ました。

「主に守られて」

高井幾世

昨年多くの方々のお祈りとご支援によって、主の恵みのうちに新会堂が完成しましたこと心より感謝申し上げます。私は金沢文庫キリスト教会に集わせていただき、30年余りになります。何度も落ちこぼれそうになる弱い私を、主は憐れみ守りのうちに歩ませてくださいました。

夫の転勤で千葉から横浜に移り住み初めて

文庫教会を訪れたとき、長男は3歳で次男はまだお腹の中におりました。新しい土地での生活に不安を抱える私を白根先生と清子奥様は笑顔で迎えてくださいました。それから教会の方々にはどれだけ助けていただいたことか、本当にたくさん支えていただきました。神様はすべての人を、主を信じる家族として受け入れてくださいます。そして誰一人とし

て滅びることがないようにと招いてくださり、私達家族もその大なる主の導きによって守りのなかに入れていただきました。

30年の月日の間には、苦しいことや悩むことも度々あり、決して波風が立たない穏やかな日々の連続というわけではありませんでした。しかし主は不思議な御手をもって救いを差し伸べてくださったことを思います。特に、長男が関東学院六浦中学校に入れていただいた年の秋、夫が四国松山に単身赴任することになり、経済的にも精神的にもいろいろと苦しいところを通されました。その頃何度も求人広告を見ては面接を受けたのですが、すべて不合格で不安にかられる日々でした。そんな折、ありがたくも教員の仕事を与えられたのです。ただ40歳からのスタートで、どうすればよいかわからず途方に暮れることも多くありましたが、心を鎮めて祈るとき主は時宜にかなった道を備えてくださいました。そして今年3月無事定年を迎えるまで勤めることができました。採用に至るまでのこと、そしてその後の一つひとつのことを考えると、まさに神の配剤以外の何ものでもなかったと

思うのです。これまでの歩みを振り返るとき、神様は試練とともに逃れる道も与えてくださり、この小さき弱き者にも寄り添い導いてくださったことを心から感謝します。

昨夏、教会の皆様に見送っていただき天に召された母は、何より祈りを大切にする人でした。その母から信仰を受け継ぎ、こうして教会生活を守れる幸いを感謝します。そして今、新しい会堂で森島牧人、恵牧師が牧会される金沢文庫キリスト教会が、これからもこの地において救いを求めるすべての方々の光となり続けますようお祈りいたしております。



「私が命のパンである」 白根義輝 (教会学校の礼拝説教)

自分はどんな人か、ほかの人に知ってもらうために説明することを自己紹介と言います。

例えば先生だったら、・私の名前は白根義輝です・私は人間です・私は男です・私は金沢文庫に住んでいます・私は先生です。と言え、どんな人か伝えられますね。

では、レオン君、自己紹介してください。

次に、岩垂先生も自己紹介してください。

イエス様も自己紹介をなさいました。

「私は道であり真理であり命である」 ヨハネ 14 : 6

「私は羊の門である

私は門である

私は良い羊飼である」

} ヨハネ 10 : 7~

「私は世の光である」 ヨハネ 8 : 12

「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である」 ヨハネ 15 : 5

そして、イエス様は面白いことをおっしゃいました。

「私が命のパンである。私のもとに来るものは決して飢えることがなく、私を信じる者は決して渴くことがない。」 ヨハネ 6 : 35

今日は、イエス様がどんなパンなのか、一緒に考えましょう。

お腹がペコペコでは力が湧いてきませんね。勉強も遊びも思うようにできません。ですから私たちは御飯やパンを食べます。

イエス様は、私が命のパンである、とおっしゃいました。勿論、食べるパンではありませんね。お腹が一杯になるパンではありません。心が一杯になるパンです。

では、どんな時に心が空くのでしょうか。友達と喧嘩をしてしまった時、悪いことをして叱られた時、勉強や仕事が上手くいかなかったとき、そういう時は心がもやもやしたり、悲しかったり悔しかったです。

でも、一番悲しいのは、私は神様から愛されていない、神様から遠く離れていると思う時です。自分は神様から愛される価値、資格がないと思う時です。

大人も同じです。仕事が上手くいっていても、たくさんお金があっても、ほかの人から見るとすべてが上手くいっていて悩みがないような人でも、心から満足できない人がいます。

私は何のために生まれたのか、何を目標に生きて行けばいいのかわからない人がたくさんいます。

そんな時に、イエス様がおっしゃった言葉が心を慰め、力をくれます。心を一杯にしてくれるパンを下さるのがイエス様です。イエス様を信じる人は一人も滅びませんと約束してくれました。ですから私たちはイエス様を信じて、生きる力を貰いたいと思います。

1週間に1日だけ御飯を食べる人はいません。毎日食事をしてお腹一杯にします。ですから、私たちは毎日、少しずつでも聖書を読んで、イエス様という命のパン、イエス様がお話になった御言葉を頂いて心を一杯にしたいと思います。

＜教会学校の礼拝説教感想＞ 「命のパン」 岩垂周太

「自分が何者であるかを人に伝えることを自己紹介といい、イエス様はご自身をいろいろな形で自己紹介しています。」と冗談も交えつつ、はじめられたときはお話に引き込まれました。生徒に積極的に礼拝に参加してもらおうという形はびっくりでした。そしてその自己紹介の意味するところ、つまりイエス様が「私が命のパンである。」ということにはイエス様に従う人たちにご自分のことを知ってもらおうという意味とともに「私のところにきて従いなさい。そうすれば飢えることはない。」とお伝えになるためでした。私たちは必ず一日に三食食べることで空腹を満たします。しかし、私たちはおなかではなく心もすくのです。何かうまくいかない、勉強ができない、喧嘩をしてしまった。この世で生きているなかで必ず起こることでそのせいで心のなかがもやもやします。それをイエス様に取り去り、安らぎを与えてください。実は命のパンを食べるという意味を今まで知りませんでした。礼拝でみ言葉を聞くという

ことが命のパンを頂き信仰を強めて、永遠の命にあずかることができるということは知っていましたが、自分でとらえた感想があまりにも抽象的過ぎてはっきりとはわからなかったのです。これは聖書の中でイエス様にパンをもらおうとした群衆も私と同じであったと思います。彼らは一時の空腹を満たすためにイエス様にパンをもらいに行きましたが、イエス様はその群衆に教えるために「私が命のパンである。」とおっしゃられたのです。自己紹介には「私は」と「私が」の二つがあります。「は」で終わるほうはまだ知らない人に向かって初めて紹介するときに使います。しかし、「が」で終わるほうはすでに聞いたことはあるが確定していないときに紹介するときに使います。イエス様は「が」を使っています。これは群衆もイエス様も「パン」というものだけはお互いに知っていましたが、「命のパン」と「食べるパン」という決定的な違いがあったからだと思います。そして私の一番の思いは命のパンは私たち人間と神様を結ぶ生命線だということです。必要な時にだけ命のパンを頂くのではなく、いつもいつ

も頂き続けて魂に刻み込むことがイエス様に向き直って祈るためには欠かせないものではないかと思いました。一週間聞かなくなり、二週間聞かなくなると、神様を忘れてしまう、そして神様を戸の外に締め出し、扉を叩かせ

てしまうことになります。私もこの礼拝を聞いて、「命のパン」をその日その時まで絶え間なくいただけますように。そして主を命の限り信仰できますように。

「老いの中の輝き、希望」 白井豊子

もうすぐクリスマス!!

クリスマスと同時に思い起こすのは、白根新治名誉牧師の召天の日であることです。先生が召されてからもうすぐ一年を迎えるのですが、今後もクリスマス毎に思い起こされることでしょう。

先生が亡くなる前、ホームにおられました。私は何度か先生を訪ね、「老いていく中にも希望がある」ことを教えていただきました。そのことを振り返りながら記していきます。

<5月9日> 先生の居られたホームは、かつて奥様の清子先生がおられ、毎日夕食介助に先生自らが通われた所でした。私は「奥様もここで過ごされていて、亡くなられて七年余りになりますね。」と話しかけました。すると先生は「亡くなってはいない、生きている。けれど遠くへ雲隠れしている」と和やかな表情で語られたのです。なるほど先生の心にはいつも奥様が生きておられるのだと思い、事実は異なるけれど、むしろ先生の真実な想いが伝わってきたのでした。

<12月21日(木)15時半> 先生が亡くなられた4日前です。先生は私にすぐに「オー、豊ちゃん」と声をかけてくださいました。このような呼びかけは初めての事だったので驚きました。子どもや友人に語りかけるような響きがその呼び方にはあります。私は手のかかる子どもの様に、かなりお世話になりました。また時には読後感や教育の話などを友人

のように語り合ったりしたことも思い起こされるのです。

この一時間前、14時半にN先生夫妻が来られ、白根先生は涙を流しながらN先生の名を呼ばれたというメモがベッドのそばにありました。私は「さっきN先生が来られたのですね」と話しかけました。すると先生は「そうですか?」と、覚えてない様子。今という時間に真実の心で生きておられるのだと逆に感心させられたものです。

帰り際には「気をつけて帰るんだよ」と気づかう挨拶をいただきました。一週間前には「もう帰るの?」と寂しげだったのと比して死を受容しておられたのではないかと今は思うのです。

老いるごとに体力、知力共に衰え、記憶力も曖昧になる自分ですが、先生のホームでの姿から老いの中の輝きや希望を感じさせられました。最後まで出会う人に感謝、励まし、慰めの言葉を与え続けた白根先生。これまでの白根先生の生活そのものが反映された姿でした。神に仕え、隣人にも仕え続けた先生の姿でした。



「若者は幻を！老人は夢を！高齢者・私のつぶやき」 犬塚志朗

「『歯痛だ！眩暈だ！げっそりと痩せてしまったっ!!』 身も（おまけに心も）衰えて、

神の与え給う幻（ビジョン）を求める年齢をとうに過ぎてしまった。でも、夢、この嫌な

時代の中にあっても神を信頼する時にのみ与えられる本当の夢、夢を抱きながら平穩に過ごせるなら…。『…みな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり…』（ヘブル 11:13）とあるように。また、讚美歌『神様のそばのきれいなきれいな川で / みんなで集まる日のああなつかしや』とあるように早く・・・。」

一方、こんな怒りの声も「自分を叱咤激励し、できる仕事をきちんとこなし、与えられた残りの人生を、奢らず、妬まず、高ぶらず、謙虚に過ごすように。地上でのやり残しのないように、また、今後迷惑をかけることのないように『終活』の準備をなさいっ！」と聞こえてきます。

「門松(=正月)は冥土の旅の一里塚、めでたくもあり、めでたくもなし」新年を迎える度に思い起こします、が、クリスマスは天国到来の告知、「めでたくもあり、めでたくもあり」クリスマス、そして新年を迎えるにあたって、神さまの御護りの下、心から、「おめでとうございます!! 神様の豊かなみ恵みがありますように!」と、祈って行きたいと考えています。



「遠藤周作について」 梅谷興三

遠藤周作(1923-1996)は「沈黙」で有名なカトリック作家である。幼年期を旧満州大連で過ごす。母は父と離婚、カトリックの信者となる。その母親に育てられた周作も洗礼を受ける。

「沈黙」は島原の乱のあと日本に潜入したポルトガル人の宣教師ロドリゴが捕らえられ拷問を受け、踏み絵で棄教を迫られる物語である。最近金沢文庫キリスト教会で始まったキリスト教入門講座で周作の作品に接する機会を与えられた。「沈黙」の映画、作品「死海のほとり」を経て今「イエスの生涯」を輪読している。この中に出てくるイエスは神の子というよりむしろ神の愛を確信しながらも周りの人々にその愛を示し得ない一人の人間として描かれている。彼は病人や身体に不自由な方にいつも寄り添いながらもそれに対して神が沈黙していることに苦悩する。イエスの行動はモーセ以来尊重されてきた律法を軽視しているように見えること、彼に集まって

くる群衆や弟子たちはイエスをローマ帝国の政治的支配から脱却、解放してくれる指導者として切望されていることなどから、山上の説教にある「貧しき者は幸いななり」とか、「右の頬を打たれば左をも向けよ」とかイエスの考えとはかなり隔たりがあって、裏切られ、失望した群衆がイエスを十字架へ押しやることになる。

また、聖書は必ずしも絶対という考えではなく、原始キリスト教団の信仰告白からきた表現にも言及されている。

キリスト教が日本人の感性になじまぬことに悩み、フランスに何回も留学、生涯をかけた遠藤周作に注目していきたいと思う。



【主日礼拝説教要旨】2018年10月28日

「気を落とさずに絶えず祈ろう」 ルカによる福音書18章1-8節 森島 恵牧師



信じて生きる。それは常に闘いの連続です。信仰生活を全うすることのために大切なことは祈ることで、信じるということは、祈ることと同じです。神を信じていると言いながら、祈ったことがないとすれば、おかしいことです。祈りは、祈るその人の存在の中に入り込むのです。一日に何分祈っているか、何時間祈っているかと言うようなことでは捉えられないものです。

主イエスは、しばしば祈ることを教えられました。18:1に「イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教える」ために、弟子たちにたとえを話されたと記されています。なぜこのたとえ話をされたのでしょうか？ 私たちに「気を落とさずに」（失望しないで）、いつも祈ってほしいと願っておられたからです。信じて生きていくということは、祈る勇気を失わないことだといわれているのです。

もう一つ大切なことは「絶えず祈る」ということです。私たちは一生続く祈りを求められているということです。祈ることは体験しなければわかりません。大切なことはみなで一緒に集まって祈るということです。皆で一緒に集まって、祈りの言葉にアーメンと言う体験がわたしたちを支えるのです。

このたとえ話に登場するのは、神を畏れず、人を人とも思わない裁判官と不当な扱いを跳ね返すしか道が無いやもめです。主イエスは、このやもめの祈りの心を求めておられるのです。不正の裁判官は、＜このやもめがうるさくてかなわない＞からと言う理由で、やもめの願いを聞き、決着をつけようと考えたのです。ましてや、「神は昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずほうっておかれることはない」のだといわれるのです。

祈りとは、神に求めていくものだと考える私たちに、祈りとは願いを求めることではなく、神の言葉に従って生きて行こうとする者が直面する困難や不安の中から生まれてくる叫びなのです。挨拶のような祈りをする私たちにとって、祈りは、神に対してどのような生き方をしているのかが問われることです。神への深い信頼と真実の生き方から、叫びの祈りが出て来るのです。真実に信仰に根ざす祈りへと、主イエスは私たちを招こうとされているのです。

信仰生活とは神のことを常に忘れないで生きていくことです。気を落とさず、神に希望をおいて絶えず祈る・・・そのような一人一人であり、教会でありたいと願います。



教会学校の生徒たちの感想

明石 怜晃(あかし れおん)君 4年生

- ①教会学校に初めてきた時: 関東学院六浦小学校に入学した1年生の時
- ②好きなさんびか: ウリエイウツソ (こどもさんびか108)
- ③好きな聖書のはなし: 使徒言行録 28:1-29
パウロが、ローマに向かう途中に難破してマルタ島についたときの話や、ローマに到着したあとパウロが宣教するという話。



キリスト教入門(水)
パソコン教室(木)
CS 聖書研究会(土)
子育て講演会(随時)
シニア健康コーラス(随時)



分級
音楽礼拝
指導中

堀江 栞(ほりえ もみじ)さん 5年生

- ①教会に初めて来た時: 青山学院横浜英和小学校に入学した1年生の時。
- ②私の好きな聖書のことば: マタイ4:14
(それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。)
- ③好きなさんびか: 104番
(しずかにしずかに 見つめていよう)
- ④クリスマスのいちばん楽しかった思い出:
クリスマスツリーや飾りを見ながら、イエスさまのたん生をおいおいしたこと。
- ⑤その他: 光の子として歩めるように、神さまを信じ、神さまを知らない人に伝えていきたいと思います。



CS 聖書研究会



学びの後のコーヒータイム

教会学校デイキャンプ (8月)



お手伝い中



自己紹介



大人の
見守りの下
水遊び





ランチタイム
会堂横の
駐車場が
キャンプ場に
様変わり
調理場にも
食堂にも
浜辺にも
なりました

保護者子育て講演会 (3回シリーズ)



講師：大賀たえ子先生

大賀野のはなカウンセリングセンター長
筑波大学大学院心理・発達相談室カウンセラー

<子供の心と育ち>三回シリーズ

「わが子は元気にすくすくと育てたい」
子どもを育てる時に親はだれしもこう思うもの
です。しかし、昨今の子ども達を取り巻く環境
はとても急激に変化し、大人も戸惑うほどの情
報が溢れています。そのような中で、豊かな心
を持ち、元気でたくましい子どもを育てるため
に、私達大人は何を大切にしながら子どもを援
助していけば良いでしょうか。

この講演会では、子育てについての最近の
様々な問題をシリーズで取り上げながら、日々
子育てに励まれる保護者の皆様と共に学んで
いきます。

シニアのための健康コーラス (5~10月、4回)

講師：飯塚三枝子先生 元東京音楽大学教師



健康体操と発声練習



「さあ、体を動かして！ 血管を柔らかくし、酸素を体中に運ぶのよ」
「足や手の指先の毛細血管の隅々にまで血液を運ぶこと」
「眼力、呼吸法、発声法(息は長生きに通じ)、立ち方、椅子の座り方にも気をつけてね！」
「大きな声で歌うこと、それは声帯を鍛えて誤嚥を防ぐ、認知症予防にもなります。」
微に入り細に亘り、健康法を訴えながらの健康体操も指導。
茶話会では一人ひとりの健康状態の悩みにもお答え下さいます。

召天者記念礼拝



各御遺族より
召天者の
紹介



幼児祝福式



生まれて二カ月
元気一杯!!



編集後記

森島牧人牧師、森島恵牧師を迎え、金沢文庫キリスト教会が大きく変わろうとしてきました。

昨年新会堂の建築を果たし、教会のホームページを立ち上げ、遠方に住む方には、youtube live を通して主日礼拝に参加できるようにしたこと。また、新しく週日の Church Café 講座が充実してきたこと。水曜日のキリスト教入門講座の2018年度のテーマ:「キリスト教の成立」で、遠藤周作の作品を通し、書籍、関連する映画を通して学んでいます。木曜日のパソコン入門講座では、初めて触れるパソコンで、もうネットで通信できるばかりでなく、添付ファイルでデータ送信もできるようになりました。また三回シリーズとして

＜子育て講演会「子どもの心と育ち」＞を、専門のカウンセラーを招いて保護者の方々に呼びかけしたこと。また、＜シニアのための健康コース＞も、元東京音楽大学教師を招いて、私たち高齢者の健康の維持、増強を目指し、発声法、健康体操等を定期的に行っています。

このような活動の背景には教会外の多くの方々の多大な支えがあったことを私たちは決して忘れていません。有難うございました。心よりお礼申し上げます。今回のあかしびと 98号では「新会堂と共に」と題して、2018年4月以降の行事を、ご報告を兼ねて編集してきました。

(記:広報部担当 犬塚)

金沢文庫キリスト教会 クリスマス礼拝の御案内

- ・クリスマス礼拝：12月23日（日）10：30～12：00
- ・クリスマス祝会：12月23日（日）クリスマス礼拝後
- ・教会学校クリスマス礼拝・祝会は合同で行います
- ・クリスマスイブ・燭火礼拝：12月24日（月）15：00～16：30
- ・横浜市金沢区 バプテスト同盟三教会合同キャラィング：

12月23日(日)15：30-16：00 追浜駅前、16:30-17:00 金沢文庫駅西口広場